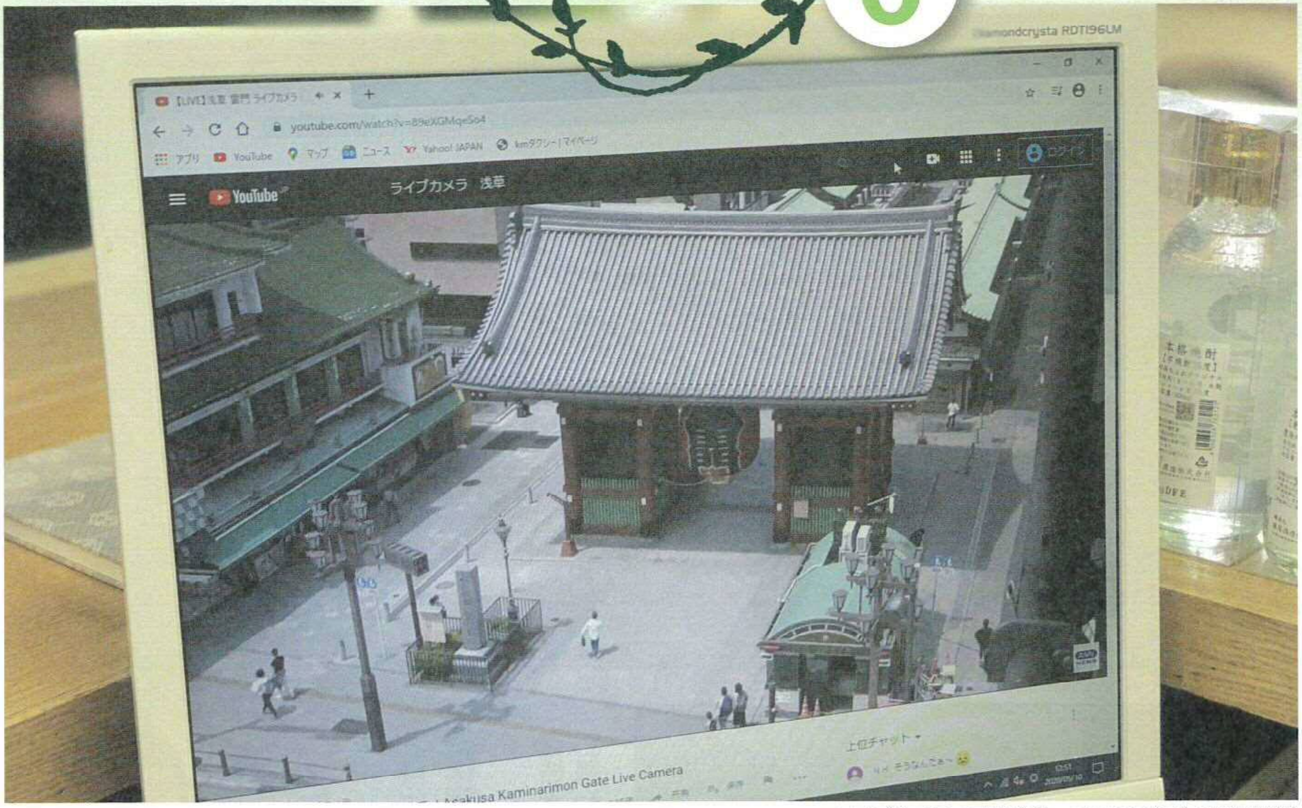
〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobiiro.jp/
発行人 脇阪 義幸
印 刷 日生印刷(株) 03-6863-3263

えこお

NO. 509
令和2年 6月号
6

暮らしの中の仏教

墓石への法名刻みはお問い合わせください。



ライブカメラで見る浅草　5月10日(日)13時頃撮影

今月の予定

6月

6日(土)	午後１時半	評議員会定例役員会 (中止)
１３日(土)	午後５時半	同行会修習式・総会 (中止)
１４日(日)	午後２時	城北ブロック会総会・聞法会 (延期)
１７日(水)	午後１時半	婦人会聞法会 (中止)
１８日(木)	午後３時	総代会
２１日(日)	午後３時	評議員会総会 (延期)
２３日(火)	午後７時	仏教青年会総会(延期)
２７日(土)	午後１時半	定例聞法会
２８日(日)	午後２時	城東ブロック会総会・聞法会 (延期)

7月

4日(土)	午後６時	同行会「宗祖親鸞聖人」に聞く

※予定は変更することがあります。詳しくは寺務所までお問合せください。

えこおファイル在庫あります。

6月の山門の言葉

ホントの自由は　真実もとめるココロにあるはず

「teenage walk」　唄　渡辺美里 / 歌詞　神沢礼江（かんざわのりえ）

不安、制限、窮屈。不自由な生活を強いられている。「入院中お見舞いすら出来なかった・・・」。怒りの矛先が無い、深い無念・・・ご遺族の言葉が胸に刺さる。見えない敵に制約され未来が見えない。社会構造、生活形態、人間関係、あらゆるものが崩壊していく。

親鸞聖人の時代、公家から武家への移行による戦乱、度重なる飢饉が襲いかかり、今までのカタチあるものが崩壊した。何が真実なのか？何が自分を支えるのか？道を求める心は自ずと吹き上げたに違いない。その問いそのものが親鸞の生命力であった。「真実」を掴み取ろうと懸命な中で、「真実を求める心」に自分が歩まされていたことに気が付かれたのではないだろうか。大切なのは確かなものを求めて止まない、その心であった。

掴み取ったカタチあるものは変化し崩壊する。そしてなによりも掴み取った答えに執着し、縛り付けられるのが私たち。だからこそ「真実もとめるココロ」（信心）を獲得することが大切なのだと思う。そしてそれこそが誰もが何時でも何処でも手にすることができる「ホントの自由」（解放）なんだと、大好きな曲から響いてきた。

（山崎　哲　記）

みんなはこう聞いた!!

五月に掲げた山門の言葉『殺菌・抗菌・除菌　無菌なら安全なのか』を皆さんはどう聞いたのか、お尋ねしました。

ウイルスが怖いからと言って、無菌室に籠る訳にはいかない。ウイルスが憎いけど、学ぶしかない。

恥ずかしながら、「自分だけなら大丈夫だ」という考えが、初めて無くなりました。

（40代男性　飲食店店長）

ウイルス自体が自然の一部であり、ウイルスの変異もまた自然の一部であり、そのウイルスを完全滅菌せず（出来ず）に今日があると思っています。

現状、新型コロナウイルスは「明確、且つ、具体的な対策方法がない」ということが人類にとっての脅威・問題であると考えています。

新型コロナウイルスが人類を淘汰するための自然からの回答なのかもしれませんが、人類はそれを乗り越え、インフルエンザのように「共生できる手段」が確立され、終息に向かえるように私も願っております。

（30代　男性　会社員）

えこお特別企画

今、よろこびを念う

念：心に留めること、気持ち、強い意志・信念・願望

世の中が不安の黒雲に覆いつくされ、沈み込んでいる今、私たちは何をよろこびとして願うでしょうか。先行きが不透明な今だからこそ、何が本当のよろこびなのか、何を拠り処として生活していくべきなのかを皆さんと共に考え、共に歩む手がかりとしていきたいと思います。今回は西徳寺、責任役員4名様です。（五十音順）

磯田 範雄 様

コロナウイルスの感染拡大の脅威は、世界中を席巻している。そんな中で、日本の取り組みは、罰則を設けず自粛要請のみで一定の効果をあげてきた。これは日本人の実直さや、真摯な性格がもたらした結果だと思い、嬉しいことである。小さい子ども達も我慢しているのだから、ましてや大人をやである。目下の最大のよろこびは、コロナウイルスの収束である。自然も自由も人も、失ってみて初めて大切さに思い至る。小さな気付きもまた、大きなよろこびである。

今井 正之 様

1月9日、中国政府が「新型コロナウイルス」を発表し、瞬く間に全世界にパンデミックを拡散している。

2年前、西徳寺を軸に江戸文化「燈虹塾」を立ち上げた。“燈”とは闇の中に光を見出す“あかり”である。暗く険しい夜道を歩いていくとき、我々の祖先はかすかな“あかり”を目指し、身命をかえりみず向かった先に、親鸞聖人が燈火をともして待っていたのではないか。今、未曾有の暗闇の先に、果たして現代の親鸞聖人はいるのだろうか。

小田 周太朗 様

コロナウイルス感染拡大の下、西徳寺様、檀家の皆様のご健康ご安全を祈念します。又、医療関係者の皆様に感謝します。

私は最近「自利利他」の気持ちが大切だと強く考えています。相手を幸せにすることで（利他）自分が幸せになれる（自利）。この気持ちを常に持って今の難局に対峙し人や社会や国家の為になり、今のよろこびになればと真摯に思っています。

どうか皆様、ご安全に。

川村 洋三 様

平成２８年に母、平成２９年に父を見送りました。両親の3回忌を前にした昨年春、健康診断でよもやの病気を告げられ、5月中旬に手術、その後治療を続け、今年の春から、ようやく日常の生活に戻りました。毎日、普通に過ごせることが私のよろこびです。今のウイルスに怯えすぎず、与えられた人生を自然体で受け止めて、過ごしていこうと思います。

徒然なる想い

評議員会会長 竹内 乾一郎

3月から、騒然とした雰囲気が世の中を覆っています。

そんな中、お寺から頂戴したカレンダーの言葉（3月）、「アミダさまの胸の内 私のことでいっぱいでした」が目にとまり、胸が熱くなりました。

実は長年ちょっとしたワダカマリがあり…『歎異抄』の後序、「弥陀の～願を～案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり」という一節があります。この言葉にずっと引っかかっていたのです。

親鸞さまは阿弥陀さまを独り占めにして、われわれはどうなるの？と、落ち着かない気分が続いていました。しかしカレンダーの言葉を見て、阿弥陀さまは無限で、一人ひとりを胸の内一杯に納めても大丈夫なのだと腑に落ちたのです。

木の葉裏にイモ虫を見つけ、なんとか人に見つからず蝶になって欲しいと奥の方に移すのが精一杯で、見守り保護するまで至らない自分の情けなさ…。そして食卓に載っている肉や魚をためらいなく口に入れる行為を、どのように解釈、納得したらいいのか…モヤモヤとした想いがわだかまっています。

次回の聞法会に参加して軌道修正させていただこうと考えています。

皆様の代わりに、お花・お線香等、お墓にお供えできます。

私のいいね！

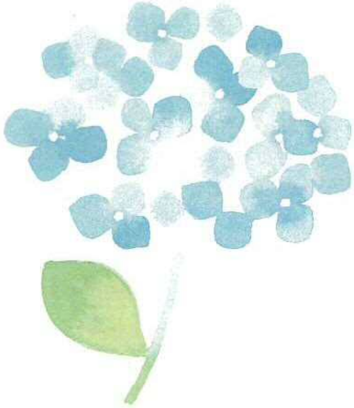
「料理」 大谷義博 顧問

昔はとにかく食べる物がなくて、自坊のある島根にいた頃は、小学生からウナギを獲って背開きにしたり、魚やナマズ、ドジョウ、何でも自分でさばいてたね。

東京に来てからも料理はよくしたよ。高校時代からマイ包丁を持っていて、三徳包丁、出刃包丁、刺身包丁。今でも家内がいないときには煮炊きは自分でするし、とにかく手先が器用なんだ。裁縫も得意だし。得意料理は魚の煮付け。とにかく魚をさばくのが好きなんだ。

昔は大晦日に職員のみんなに蕎麦を打って、振舞っていたこともあるんだよ。久しぶりにまた打ってもいいね。 （聞き手：蓮井・仲井）

「一代墓地」、各種墓地、受付中。



慶所聞（きょうしょもん） ～よろこび合う生活～

先日、本堂にハトが３羽迷い込みました。後に法事が控えていたこともあり、職員総出で追い出し作業をしましたが、ハトも警戒してなかなか出ようとしません。長い棒を振り回したり、手を叩いたり、大声を出したりとあの手この手でハトと格闘しました。

激闘の末、なんとかハトを追い出すことに成功。日々コロナウイルスのことで暗くなっていた最中ですが、ヘトヘトになりながらも、何か充実感がありました。ハトを追い回している間はコロナのことを考えることなく、単純に楽しかったからです。はからずもハトに気分転換のきっかけをいただきました。 （蓮井 邦宗 記）

ウイルス騒ぎの中ですが、５月６日に第二子となる次女が誕生いたしました。滋賀県での里帰り出産、病院も患者以外は立ち入り禁止ということで、まだ私も写真でしか見られていませんが、無事に産まれてきてくれて安心しています。騒ぎが落ち着いたら会いに行き、一緒に東京での生活を過ごしたいと思います。

（仲井 真裕 記）

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

saitokuji@ce.wakwak.com

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺

ホームページ

Facebook